

# 園芸タイムリー情報


## 《6月中・下旬版》

令和2年 6月15日発行 第3号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009  
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通

- 天気は数日周期で変わり、平均気温は平年並～ほぼ平年並の見込みです。
- ①ハウスは気象・生育に応じた温度・湿度、かん水管理に努めましょう。  
曇天後の晴天時はしおれが発生しやすくなりますので、土壌水分不足に注意しましょう。
  - ②果実の肥大期、収穫期を迎える果菜類の管理は、高温、乾燥に注意し、生育に応じた管理を行いましょう。
  - ③アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い、適期防除に努めましょう。


※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
灰色かび病		
発生状況	<p>葉の病斑とかび</p> <p>摘葉は葉柄を残さずに根元から折り取る(右)</p>	
発生時期	4月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茎葉の病斑、腐敗果がやや増加してきている。</li> <li>・茎葉の繁茂に伴う通気性の悪化や、曇天降雨により発生が増加する恐れがある。</li> <li>・枯れた花卉、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。</li> <li>・芽かきや摘葉後の枯死部分から侵入し、株が枯死する場合もある。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・換気を心がけ、必要に応じて摘葉を行い通気性を確保する。</li> <li>・芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。</li> </ul>		
<p>&lt;防除の一例&gt;                      予防散布で効果の期待できる剤                      ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで                      トマト(直径3cm以下を除く)：4回以内、ミニトマト：2回以内                      ※中玉トマトはサイズにより分類されます。</p> <p>発生が見られている場合に使用する剤                      ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p>		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
葉かび病・すすかび病		
発生状況	<p>葉表の病斑(葉かび病)</p> <p>葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)</p>	
発生時期	5月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマトですずかび病が、ミニトマトで両病害の発生が見られた。</li> <li>・両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。</li> <li>・葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスの換気に努め、下葉等の摘葉による通気性の確保を行う。</li> <li>・葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。</li> <li>・発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。</li> <li>・発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。</li> </ul>		
<p>&lt;発生確認後の防除の一例&gt;(トマト・中玉・ミニトマト共通)                      ●トリフミン水和剤                      葉かび病：3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内                      すずかび病：3,000倍 収穫前日まで 5回以内                      ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p>		





作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		
発生状況		
少発生		
発生時期	コナガ幼虫	幼虫による葉の被害
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。</li> <li>5月上旬に成虫の初発が確認され、5月下旬から幼虫の発生が見られている。</li> <li>7月下旬に発生のピークとなる傾向がある。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場内外の雑草をこまめに除草する。</li> <li>防虫ネット（目合1.0mm）は、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。</li> <li>品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。</li> <li>シアミド系（プレバソフフロアブル5等）の薬剤抵抗性個体群が出現している。防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。</li> </ul>		


作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	カタツムリ	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況		
少～中発生		
発生時期		ナメクジ
5月上旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の食害の他、フンや本体の混入が問題となる。</li> <li>雨上がりや夜間は活発に活動する。</li> <li>5月から発生が目立つことから、今後も注意が必要である。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場周辺の雑草はすみかとなるため、こまめに除草する。</li> <li>スラゴを使用する場合はほ場周辺の雑草地に散布し、作物に直接付着しないように気をつける。</li> <li>ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所に好んで生息することから、これらの場所へ重点的に散布する。</li> </ul>		
<防除の一例>		
●スラゴ 1～5g/m <sup>2</sup> (3.3～16.5g/坪) 発生時		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	キスジノミハムシ	
キスジノミハムシ		こまつな葉部食害
発生状況		ラデッシュ根部食害
少発生		
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2～3mm)	
6月上旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。</li> <li>気温の上昇に伴い、6月から成虫の発生が見られる。</li> <li>7月～8月に発生がピークとなる傾向がある。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●成虫期間：1～4ヵ月</li> <li>●卵期間：5～7日</li> <li>●幼虫期間：10～20日</li> <li>●蛹期間：3～15日</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。</li> <li>土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。</li> <li>ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。</li> </ul>		
<防除の一例>		
こまつな		
●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回		
チンゲンサイ		
●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回		
チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな		
●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回		

作物名	ほうれんそう	
病虫害生理障害名	ハウレンソウ ケナガコナダニ	
ハウレンソウ ケナガコナダニ		子葉の湾曲
発生状況		
中～多発生		
発生時期		葉に発生したこぶ状の小突起
3月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>春・秋の比較的低温時に発生が多いが、夏期を含む栽培期間中は継続的に発生が見られる。</li> <li>新芽、新葉部に集中して寄生する。子葉の湾曲、本葉2～4葉期の加害により、その後の展開葉が奇形となる症状が見られる。</li> <li>連作栽培されることが多く、発生密度が高まり、出芽揃い直後や本葉4葉期以降も加害される場合がある。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫後は残渣をきれいに片付ける。</li> <li>未熟たい肥やもみ殻等の易分解性有機物の土壌施用を避ける。</li> <li>土壌施用剤（フォース粒剤）や土壌消毒剤（バスアミド微粒剤、キルパー等）を用いて、土壌中の密度を低下させる。</li> <li>は種後の防除では、地表面にも薬剤がかかるよう、十分な薬液量で丁寧に散布する。</li> </ul>		
<防除の一例>		
●バスアミド微粒剤 20～30kg/10a は種10日前まで 1回		
●キルパー 原液として60L/10a		
は種又は定植の10日前まで 1回		
●フォース粒剤 9kg/10a は種前 1回（全面土壌混和）		
●カスケード乳剤 4,000倍 収穫3日前まで 3回以内		



作物名	きゅうり													
病虫害 生理障害名														
褐斑病														
発生状況														
少発生														
発生時期	発生初期の病斑 病斑は丸みをおびる													
6月上旬～														
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> <li>すでに発生が見られるので注意する。</li> <li>葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。</li> <li>べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。</li> <li>生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。</li> <li>草勢が衰えている場合に多発しやすい。</li> </ul>														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> <li>適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。</li> <li>昨年発生したほ場では、予防防除を行う。</li> <li>ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。</li> <li>薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤は連用しない。</li> </ul> <防除の一例> <table border="0"> <tr> <td>●プロポーズ顆粒水和剤</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>●ジマンダイセン水和剤</td> <td>600倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>●スミブレンド水和剤</td> <td>1,500～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>5回以内</td> </tr> </table>			●プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	●ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫前日まで	3回以内	●スミブレンド水和剤	1,500～2,000倍	収穫前日まで	5回以内
●プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内											
●ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫前日まで	3回以内											
●スミブレンド水和剤	1,500～2,000倍	収穫前日まで	5回以内											

作物名	すいか・メロン・きゅうり																													
病虫害 生理障害名																														
アブラムシ類																														
発生状況																														
少発生																														
発生時期	すいかに発生したアブラムシ(左)と被害葉(右)																													
6月上旬～																														
発生の状況・要因																														
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。</li> <li>ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。</li> </ul>																														
対策																														
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> <li>ミツバチを放飼しているほ場では、薬剤散布を控える。</li> </ul> <防除の一例> <table border="0"> <tr> <td>●チェス顆粒水和剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>5,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか・メロン</td> <td>5,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●モスピラン顆粒水溶剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>2,000～4,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>2,000～4,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>8,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table>			●チェス顆粒水和剤				きゅうり	5,000倍	収穫前日まで	3回以内	すいか・メロン	5,000倍	収穫3日前まで	4回以内	●モスピラン顆粒水溶剤				きゅうり	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内	すいか	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内	メロン	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内
●チェス顆粒水和剤																														
きゅうり	5,000倍	収穫前日まで	3回以内																											
すいか・メロン	5,000倍	収穫3日前まで	4回以内																											
●モスピラン顆粒水溶剤																														
きゅうり	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内																											
すいか	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	3回以内																											
メロン	8,000倍	収穫3日前まで	3回以内																											

作物名	すいか・メロン・きゅうり																																	
病虫害 生理障害名																																		
ハダニ類																																		
発生状況																																		
少発生	きゅうり	すいか																																
発生時期	メロン																																	
6月上旬～																																		
発生の状況・要因																																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。</li> <li>高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。</li> </ul>																																		
対策																																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul> <防除の一例> <table border="0"> <tr> <td>●コロマイト乳剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●ニッソラン水和剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫3日前まで</td> <td>2回以内</td> </tr> </table>			●コロマイト乳剤				きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内	すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	●ニッソラン水和剤				きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内	すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
●コロマイト乳剤																																		
きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内																															
すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内																															
メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内																															
●ニッソラン水和剤																																		
きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内																															
すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内																															
メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内																															

作物名	きゅうり・すいか・メロン																	
病虫害 生理障害名																		
菌核病																		
発生状況	菌核病菌が検出されたすいかの葉の症状(下)																	
少発生																		
発生時期																		
5月下旬～																		
発生の状況・要因																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび(菌糸)を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。</li> <li>20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。</li> <li>すいかやメロンでは、着果期を過ぎ、茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。</li> </ul>																		
対策																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>着果期前より予防防除を実施する。</li> <li>被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。</li> </ul> <防除の一例> <table border="0"> <tr> <td>●スミレックス水和剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>6回以内</td> </tr> <tr> <td>すいか</td> <td>1,000～2,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>メロン</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table> ※スミレックスくん煙顆粒は、メロンに登録がなく使用できません。 ●カンタストライフロアブル きゅうり・すいか・メロン 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内			●スミレックス水和剤				きゅうり	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内	すいか	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内	メロン	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
●スミレックス水和剤																		
きゅうり	1,000～2,000倍	収穫前日まで	6回以内															
すいか	1,000～2,000倍	収穫7日前まで	5回以内															
メロン	2,000倍	収穫前日まで	3回以内															